

8 沖縄

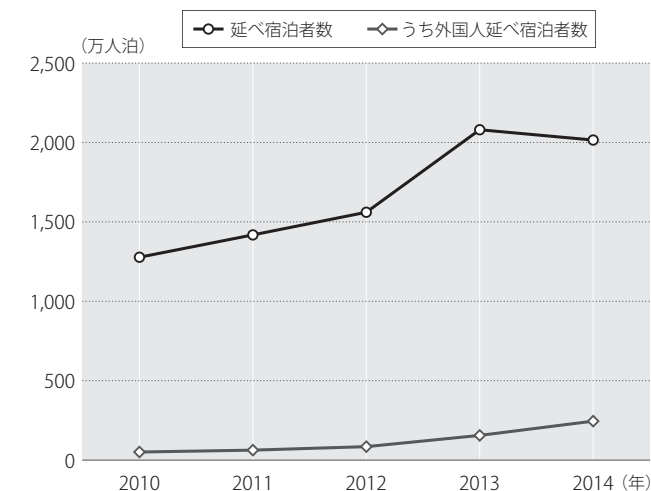
入域観光客数は705万8千人（暦年）で過去最多を更新
外国人客の増加を視野に入れた、ホテルやショッピング施設、
インフラなどの整備が進展

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると14年1月～12月の沖縄の延べ宿泊者数は2,014万人泊となり、前年比3.1%減（65万人泊減）となった（図IV-8-1）。

一方、外国人延べ宿泊者数は239万人泊となり、前年比60.4%増（90万人泊増）と大幅な伸びとなった。5年前（2010年）と比較すると、実に5倍以上の増加となっている。

図IV-8-1 延べ宿泊者数の推移（沖縄）



| 延べ宿泊者数 | 1,274 | 1,415 | 1,558 | 2,079 | 2,014 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| うち外国人延べ宿泊者数 | 44 | 56 | 78 | 149 | 239 |

※～2010.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする
2010.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする
資料：観光庁「平成26年宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

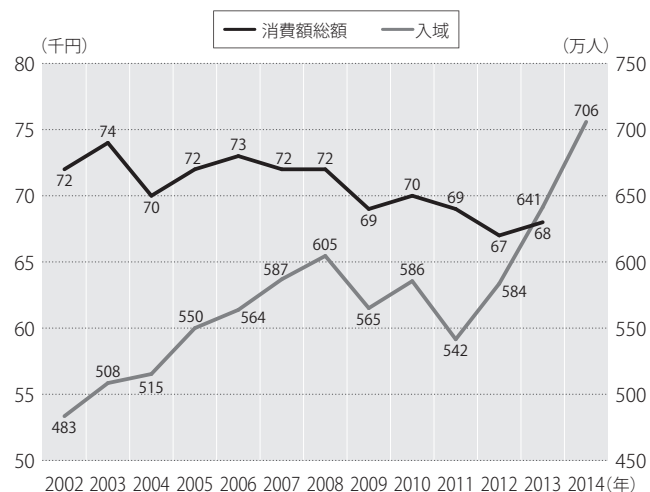
沖縄県が推計している「入域観光客数（含ビジネス客）」は、14年（暦年）で705万8千人となり、前年比10.1%増（64万5千人増）と過去最高を更新した（図IV-8-2）。前年に引き続き大幅な伸びとなり、沖縄旅行が引き続き好調である様子がうかがえる。

入域観光客数のうち、県外客（外国人を除く）は616万5千人（前年比5.1%増）、外国人客は89万4千人（同62.2%増）で、外国人客比率は12.7%と前年（8.6%）を大幅に上回った。外国人客比率は2006年以降、拡大の一途をたどっている。国籍別に見ると、台湾34万4千人（前年比46.1%増）、韓国15万5千人（同93.9%増）、香港12万3千人（同45.9%増）、中国11万3千人（同137.2%増）、その他15万8千人（同53.2%増）であり、前年はマイナスの伸びであった中国が2倍以上の大幅な増加、その他の地域も軒並み増加となった。

離島の動向を見ると、沖縄県八重山事務所が公表している八重山地域の入域観光客数は、14年（暦年）が112万1千人と

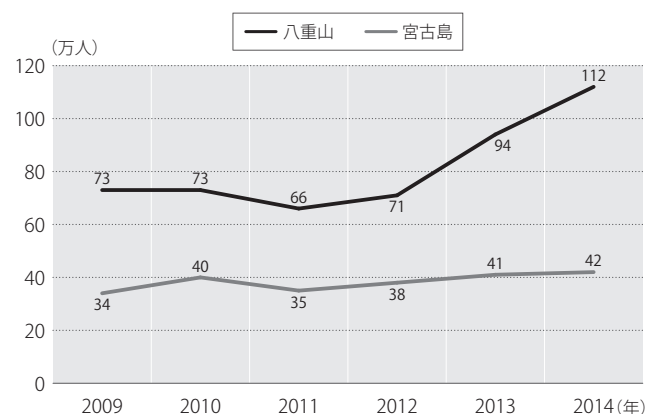
なり、初めて100万人の大台を突破した（図IV-8-3）。前年比は19.0%増、人数では17万9千人増となっている。13年3月7日の新石垣空港（愛称：南ぬ島石垣空港）の開港効果もあり、八重山の観光は順調に推移している。一方、宮古島市が公表している宮古島の観光客数は、14年（暦年）が42万2千人となり、前年比2.8%増（1万2千人増）となった。宮古島の観光客数は大幅ではないものの、着実に増加している。

図IV-8-2 入域観光客数と1人当たり観光消費額の推移



資料：沖縄県「観光統計実態調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

図IV-8-3 八重山地域および宮古島の入域観光客数の推移



資料：沖縄県「八重山入域観光客数統計概況（推計）」および宮古島市「宮古の入域観光客数」をもとに（公財）日本交通公社作成

(2) 観光地の主要な動き

外国人客の増加傾向を受け、国際線の増便、宿泊施設のオープン、商業施設・アミューズメント施設のオープン、インフラ関連施設の整備などが行われた。

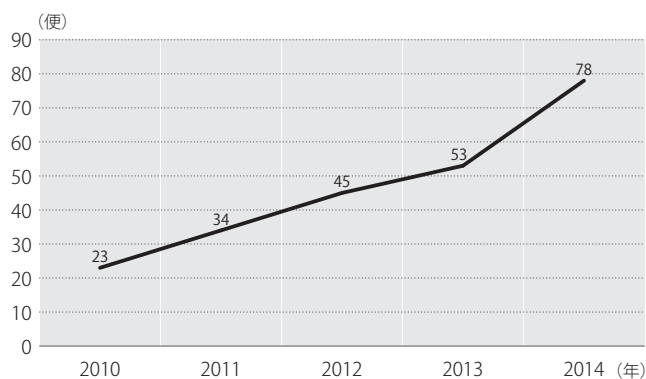
●国際線の増便

那覇空港ではここ数年、国際線（直行便）の便数が増加傾向にあり、14年2月17日の新国際線旅客ターミナルビルの供用開始が便数の増加に拍車をかけることとなった。14年の週当たりの便数は78便で、前年比47.2%増（25便増）となった（図IV-8-4）。内訳は、台北28便（提供座席数4,522席）、香港18便

(同4,594席)、ソウル14便(同2,457席)、上海11便(同1,709席)、釜山3便(同465席)、北京2便(同330席)、台中2便(同208席)となっている。

15年は、さらなる便数の増加が見込まれる。

図IV-8-4 那覇空港における国際線(直行便)の便数(週当たり)の推移



※各年とも4月1日時点の便数を掲載

資料：沖縄県「観光要覧」をもとに(公財)日本交通公社作成

●宿泊施設の開業

14～15年にかけてオープンした主な宿泊施設(名称変更などによるリニューアルオープンを含む)を表IV-8-1に示す。

14年は、新規に建設された「ヒルトン沖縄北谷リゾート」「ホテルオリオン モトブリゾート&スパ」などに加え、既存施設の新たな活用や名称変更などによる開業もあり、1,000室を上回る客室数の増加となった。

15年についても、「ジ・ウザテラスビーチクラブヴィラズ」や「ハイアットリージェンシー那覇」などの新規ホテルが開業するなど、ホテルの建設ラッシュが続いている。

表IV-8-1 2014年から2015年にかけてオープンした主な宿泊施設

| 年月 | 宿泊施設名 | 場所 | 室数(棟数) |
|-------------|------------------------------|------|--------|
| 2014年4月 | AJリゾートアイランド伊計島 | うるま市 | 86 |
| 7月 | ヒルトン沖縄北谷リゾート | 北谷町 | 346 |
| 7月 | ホテルオリオン モトブリゾート&スパ | 本部町 | 238 |
| 7月 | ホテルライジングサン宮古島 | 宮古島市 | 108 |
| 7月 | ホテルピースアイランド宮古島市役所通り | 宮古島市 | 97 |
| 9月 | ロワジールホテル沖縄美ら海 | 本部町 | 94 |
| 9月 | ホテルリソネックス那覇 | 那覇市 | 84 |
| 2014年計 | | | 1,053 |
| 2015年4月 | 北谷ビーチサイド condominium ホテル モンパ | 北谷町 | 68 |
| 7月 | ジ・ウザテラス ビーチクラブヴィラズ | 読谷村 | 40 |
| 7月 | ハイアットリージェンシー那覇 | 那覇市 | 294 |
| 2015年計(暫定値) | | | 402 |

資料：新聞記事やホームページなどをもとに(公財)日本交通公社作成

●商業施設・アミューズメント施設のオープン

14～15年にかけてオープンした主な商業施設・アミューズメント施設などを表IV-8-2に示す。

14年は、ショッピングやレストラン、アクティビティなどを備えた複合商業施設「美らテラス」が名護市の屋我地島にオープンしたのをはじめ、多様な施設がオープンした。

15年は、大型のショッピングセンターや商業施設など、地元客および観光客の買い物需要に応える施設のオープンが相次いでいる。

表IV-8-2 2014年から2015年にかけてオープンした主な商業施設・アミューズメント施設

| 年月 | 商業施設・アミューズメント施設名 | 場所 | 概要 |
|---------|------------------|------|---|
| 2014年4月 | 美らテラス | 名護市 | グルメショップ、雑貨店、カヌー、レンタサイクル、バーベキューなどを楽しめる |
| 4月 | かりゆしカンナタラソラゲーナ | 宜野座村 | 本格的なタラソセラピー(海洋療法)が体験できる施設(旧かんなタラソ沖縄) |
| 8月 | 沖縄市音楽資料館おんがく村 | 沖縄市 | 歴史的に貴重な沖縄の音楽資料を集めた資料館 |
| 11月 | いまいゆ市場 | 南城市 | 奥武島漁港内にあり、鮮魚や野菜の販売、食事、体験学習、民泊などを楽しめる |
| 12月 | 豚我小谷アグー村 | 名護市 | 沖縄在来種の黒豚「アグー」をモチーフにしたテーマパーク |
| 2015年1月 | 軽便与那原駅舎展示資料館 | 与那原町 | 旧県営鉄道(軽便鉄道)与那原駅跡に建設した資料館 |
| 3月 | HAPINAHA | 那覇市 | 旧三越跡地に建設、飲食店、雑貨店、よしもと沖縄花月やお化け屋敷などがある |
| 4月 | イオンモール沖縄ライカム | 北中城村 | 米軍の泡瀬ゴルフ場跡地に建設、大型水槽ライカムアクアリウム、沖縄の自然と融合したライカムヴィレッジが特徴的 |
| 10月 | 石垣島ヴィレッジ | 石垣市 | 繁華街である美崎町にオープン予定のコミュニティスポット、バー、カフェ、レストラン、マルシェなどを併設 |

資料：新聞記事やホームページなどをもとに(公財)日本交通公社作成

●インフラ関連の整備

14～15年にかけて整備された主なインフラを表IV-8-3に示す。

14年は、那覇空港の新国際線旅客ターミナルビルに加え、国内線旅客ターミナルビルに外貨自動両替機が設置された。これにより、国際線直行便の利用者だけでなく、成田や羽田などを経由して出国する利用者に対する利便性も強化された。また、那覇港泊ふ頭の若狭バースにクルーズ船ターミナルが設けられ、さらにボーディングブリッジも設置されるなど、クルーズ客向けの利便性も強化された。この効果もあってか、クルーズ船の那覇港への寄港数は80回で、13年(56回)を大幅に上回った。

15年は、宮古島と伊良部島を結ぶ伊良部大橋が開通した。構想から実に40年近くの歳月を経た上で、総事業費395億円をかけて完成に至った。全長は3,540mで、無料の橋としては日本最長である。隣接する下地島ではリゾート開発計画が持ち上がっており、実現すれば観光客の伊良部大橋利用の増加につながるものと考えられる。この他、14年10月にゆいレールに導入された交通ICカード「OKICA」が4月より本島内の路線バスでも運用されることとなり、地元住民はもとより、観光客の利便性の向上にもつながることとなった。

表IV-8-3 2014年から2015年にかけて整備された主なインフラ

| 年月 | 整備内容 | 場所 |
|---------|--|-----------|
| 2014年2月 | 那覇空港新国際線旅客ターミナルビルが供用開始 | 那覇市 |
| 2月 | 那覇空港国内線旅客ターミナルビルに外貨自動両替機を設置(対応通貨:米ドル、ユーロ、英ポンド、豪ドル、中国元、韓国ウォン、台湾ドル、香港ドル) | 那覇市 |
| 3月 | 那覇空港自動車道豊見城IC～南風原南IC間が4車線開通(2車線増) | 南風原町、豊見城市 |
| 4月 | 那覇港泊ふ頭 若狭バースにクルーズ船ターミナルビル供用開始 | 那覇市 |
| 10月 | 沖縄都市モノレール(ゆいレール)で交通ICカード「OKICA」の運用開始 | 那覇市 |
| 12月 | クルーズ船ターミナルビルにボーディングブリッジ(搭乗橋)が完成 | 那覇市 |
| 2015年1月 | 伊良部大橋開通(宮古島～伊良部島) | 宮古島市 |
| 4月 | 沖縄本島内路線バスで交通ICカード「OKICA」の運用開始 | 県内 |

資料:新聞記事やホームページなどをもとに(公財)日本交通公社作成

(3) 15年度の観光の目標

県が発表した「平成27年度ビジットおきなわ計画」によると、15年度の入域観光客数は760万人(前年比6.0%増、人数ベースで43万人増)、うち外国人観光客数は120万人(同21.2%増、同21万人増)の達成を掲げている。この他にも、各種目標数値を定めており、それらはいずれも14年度実績を上回る前向きな内容となっている(表IV-8-4)。

また、14年度に策定した「沖縄観光推進ロードマップ」に基づき、関係機関と連携しつつ、平成33年度の観光収入1兆円、入域観光客数1,000万人などの目標達成に向けた取り組みを着実に進める。

(牧野博明)

表IV-8-4 15年度の数値目標

| 項目 | 対象 | 平成27年度 目標値 | 前年度 比 | 平成26年度 実績 |
|-------------------|----------------|---------------|----------|--------------|
| 入域観光客数 | 全体 | 760万人 | 6.0% | 717万人 |
| | うち外国人 観光客 | 120万人 | 21.2% | 99万人 |
| 観光収入 | 全体 | 6,004億円 | 12.4% | 5,342億円 |
| | うち外国人 観光客 | 1,140億円 | 34.0% | 851億円 |
| 観光客1人当たり 県内消費額 | 全体 | 79,000円 | 6.0% | 74,502円 |
| | うち外国人 観光客 | 95,000円 | 10.0% | 86,348円 |
| 平均滞在日数 | 全体 | 3.95日 | 0.11日 | 3.84日 |
| | うち空路 外国人観光客 | 5.50日 | 0.78日 | 4.72日 |
| 人泊数 | 全体 | 2,242万人泊 | 10.2日 | 2,034万人泊 |
| | うち空路 外国人観光客 | 405万人泊 | 46.2日 | 277万人泊 |

資料:「平成27年度ビジットおきなわ計画」(沖縄県文化観光スポーツ部)をもとに(公財)日本交通公社作成